科目ナンバリング	U-LAS27 20003 SJ48						
授業科目名 <英訳>	朝鮮語IIＢ K2151 Intermediate Korean B			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　小倉　紀蔵		
群	外国語科目群	分野(分類)		使用言語	日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	火5	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

【授業の概要・目的】　朝鮮語コースの目的は、「朝鮮半島および日韓・日朝関係を文化的・社会的・歴史的な側面において理解し、東アジアにおいて生きていくための自分なりの世界観を身につけるための語学教育」（世界観養成語学教育）である。広義においては「異文化理解」となろうが、単に「異なる文化」を「理解」する、という意味ではなく、自明のものとされがちな「自文化」を相対化し、近接した他者との複雑な関係性のなかでそれを解釈したうえで、今後自らが朝鮮半島とどのような関係をアクチュアルに構築すべきかを考究するために必要な、最低限の語学力を養成することが目的である。
この授業では、昨今の日韓関係に関する評論、講演記録やインタビュー記事を読む。特に歴史認識問題に焦点を当て、その問題点を探る。
【注意】 本学で「朝鮮語」というのは、朝鮮半島すなわち大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）で使用されている言語のことである。この両国で使用されている言語には若干の相違が認められるが、大差はない。なお、特に大韓民国で使用されている言語を指すときには「韓国語」という呼称を用いる。

[到達目標]

①中級レベルの文法・語彙・運用能力を身につける。②日韓関係に関する文章を朝鮮語で読みながら、自分の頭で日韓関係について考えることができるようになることを目指す。

[授業計画と内容]

韓国の一般人向けの評論、講演、インタビュー記事を読む。その多くは話し言葉であり、また論文のようにむずかしい内容でもない。教材で語られる内容に対して、自分独自の視点から意見を述べられるようにする。教材の見解に賛同することが求められているのではない。
第０１回　イントロダクション
第０２回　評論１
第０３回　評論２
第０４回　評論３
第０５回　講演１
第０６回　講演２
第０７回　講演３
第０８回　講演４
第０９回　講演５
第１０回　インタビュー記事１
第１１回　インタビュー記事２
第１２回　インタビュー記事３
第１３回　インタビュー記事４
第１４回　インタビュー記事５
≪定期試験≫
第１５回　フィードバック

朝鮮語IIＢ K2151(2)へ続く↓↓↓

朝鮮語IIＢ K2151(2)

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、平常点（４０％）および定期試験（６０％）によって行う。なお、「平常点」とは、「出席点」のことではないので注意すること。「出席点」という概念はない。詳細は授業中に指示する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

朝鮮語を単に理解するだけでなく、その内容に関して考察し、自分の見解を持つ。

[その他（オフィスアワー等）]